

「安心と改革」をテーマとした協働によるまちづくり

登米市長 熊谷盛廣

新年、明けましておめでとう
ございます。
市民の皆さまにおかれましては、2020年の新春を晴れ晴れしい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。

「令和」という新しい時代が幕を開けました。この令和の言葉に込められた意味のように、人々が心を寄せ合う中で、美しい文化や希望の花がたくさん咲き誇る時代であってほしいと願っています。

昨年10月に発生した台風第19号により、市内各地では住宅や道路、農地などに甚大な被害が発生しました。被災された皆さまにはあらためてお見舞い申し上げますとともに、引き続き国や県と連携し、一日も早い復旧に向けた対策を最優先に取り組んでまいります。

さて、私が登米市政の信託をいただいたから、早くも4年目を迎えるようになっています。

昨年は、老朽化に伴い、新たに建設を進めていましたクリーンセンターが竣工したほか、県内

最大級の6コース54ホールを備えた高森パークゴルフ場や、本市の歴史と文化を後世に伝える観光拠点としても期待される登米懐古館が相次いでオープンしました。

また、ニッケ機械製作所様や牧野精工様の市内への立地が決定するなど、企業誘致の促進と雇用の場の確保にも努めてまいりました。

さらに、ポート競技の振興と地域の活性化を図るため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ポート競技事前合宿国の誘致活動を推進してきました。その結果、本年7月にポートポードチームが長沼ポート場において、事前合宿を行うことが決定するなど、地域の活力となるさまざまな取り組みが形となってきたものと感じているところです。

一方で本市の財政状況は、歳入の大きな割合を占める地方交付税や国・県支出金などの減少により、さらに厳しさを増すことが予想されています。

今以上に各種事業の見直しやさらなる歳入の確保など、徹底した行財政改革と財政の健全化に取り組み、持続可能な財政運営の確立を目指してまいります。

これらの積極的な見直しや改革とともに、行政運営の長期的なビジョンを示した第二次登米市総合計画に掲げた将来像にあります「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち」とめの実現に向けて取り組んでいくところです。

5つのまちづくり基本政策を柱に、豊かな自然と調和のとれた生活環境の中で、誰もが夢や希望で笑顔に満ちあふれ、「登米市に住み続けたい、住んでみたい」と感じていただけるよう、市民の皆さまと一緒に、協働によるまちづくりを進めてまいります。

結びに、本年が皆さまにとりまして希望に満ちた幸多い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

熊谷盛廣 市長
Kumagai Morihiro



多様性とエネルギーを生み出す「連」として

登米市議会議長 及川昌憲

心静かに年が明け、心静かに新年の計を立てる新春の令和の朝を迎える。

市民の皆さまには、清々しく希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。2020年の干支は「庚子」です。「庚」は象形文字で、植物が成長し、新たな形に変化しようとする様子から来ています。「子」はもちろん十二支の一番目、新たなスタートとなります。19年までに蓄えたエネルギーを、違う形に進化させ、新しいステージへと突入する。今年はそのような年になることを願います。

時代は平成から令和へと移り変わりました。地方自治・生活の在り方は時代の大きな潮流の中にあり、主体性をしっかり持ち、対応することが重要です。

今、地方は、少子高齢化と多様な災害への対応というダブルミッションを背負っています。縮小社会へと進む中、雇用、子育て支援、教育の充実を図り、医療介護、福祉、暮らしと命の安全をしっかりと整え、つなぐいくか

が大きな課題です。

平成史において、私たちの生活は一変しました。インターネットの誕生、スマートフォンの登場、AIの発達、そしてこれらを駆使した産業の確立。人工知能を搭載したロボットがどんな人間の仕事に置き換えられます。こうした中で、生身の人間でなければできない仕事とは何かは今問われます。

人口減少、ゼロ成長といった乏しい資源制約のもとで、当時の先進国水準に劣らぬ都市生活基盤を整え、成熟した社会を実現した江戸時代。その時代に「連」という仕組みがありました。

小規模ではありますが、さまざまな年齢、階級、職業の人が集まり、具体的な目標をもって創造活動を行う。多様で豊かな情報を受け取り、人と同一化せず、人と無関係にもならない。そして、常に人や他のグループに開かれている。こういった無数の「連」が江戸の多様性とエネルギーを生み出していました。登米市の未来カルテを描きながら、令和

の時の積み重ねは、まさにここにあると考えます。「自ら力」による社会づくり、地域の特徴を積極的に引き出す地方創生の取り組みです。

登米市議会も、この「連」を大切にしてまいります。志を共有する仲間との連なりの中で、多様な考えや感性を、対話を通してぶつけ合い、新しい価値を生み出す。登米市議会もそんな「連」でありたいと願います。

「令和」の趣旨を英語では「Beautiful Harmony」(美しい調和)と表します。自然、文化、歴史、産業がそれぞれ調和しながら、登米市は15年の時を積み重ねてきました。

「現在と未来に責任を持つ議会」として、これからの未来のため何ができるのか、自らの「改革と挑戦」を追求し続け「現在の横糸に、「未来」の縦糸を紡いでまいります。

結びに、新しい年が市民の皆さまにとって、光り輝く素晴らしい1年となりますようご祈念申し上げます。

及川昌憲 議長
Oikawa Masanori



2020 年頭のあいさつ

迎春